

10 機能分析

(1) 影響力、感応度

生産波及（影響力）の大きい産業は、東京都、他地域ともに鉄鋼、輸送機械であり、逆に小さい産業は、不動産業などである。また、東京都財の最終需要に対する感応度の高い産業は、サービス、金融・保険であり、他地域においては鉄鋼の感応度が高い。

逆行列係数表の縦方向（列）の合計値は、当該部門の需要が1単位発生したときに各産業に及ぼす生産波及の大きさを合計したものであり、産業全体の生産波及の大きさ（影響力）を示している。51部門表の逆行列係数表から各列和を求め、生産波及の大きさをみると、東京都の全産業平均（財・サービス部門）では1.9231倍である。産業別にみると、全産業平均よりも大きい部門は、鉱業、製造、サービスである。製造業のなかで生産波及の大きい部門は、鉄鋼（2.7436）、輸送機械（2.4749）、電気機械（2.3058）などである（図10-1）。

一方、他地域の生産波及の大きさをみると、他地域の全産業平均（財・サービス部門）では1.8782倍である。産業別にみると、全産業平均よりも大きい部門は、製造、建設である。製造業のなかで生産波及の大きい部門は、輸送機械（2.6820）、鉄鋼（2.5933）、化学製品（2.2038）などである。

逆行列係数表の横方向（行）の合計値は、各部門に最終需要が1単位ずつ発生したときに各部門の生産活動が反応する程度（感応度）を示している。51部門表の逆行列係数表から各行和を求め、生産波及の大きさをみると、東京都財・サービスの最終需要に対する感応度の高い産業は、東京都地域ではサービス（3.1646）、金融・保険（1.9444）、商業（1.8162）などである。他地域においては鉄鋼（1.9459）が高い感応度を示す他、本社計（1.4468）、化学製品（1.0018）、その他の製造業（0.8861）などが比較的高い（図10-2）。

【注】 計数については逆行列表をもとに、財・サービス部門について計算したものである。

図 10 - 1 生産波及の大きさ(影響力)

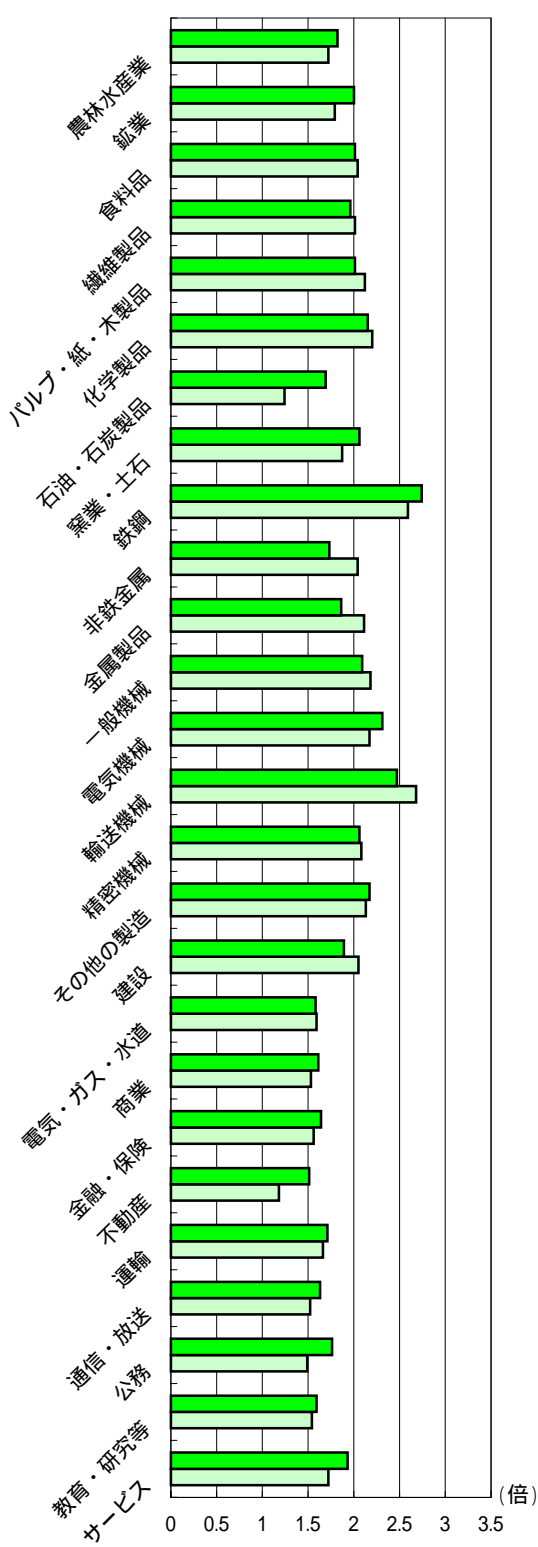
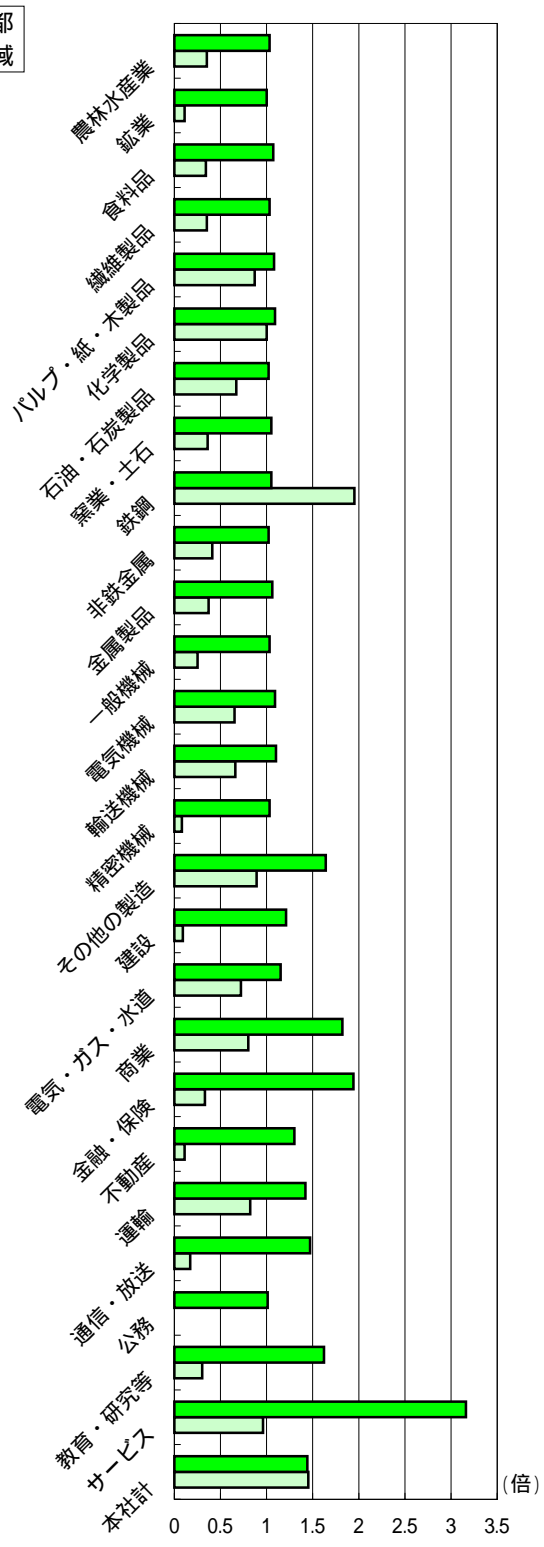


図 10 - 2 生産活動の感応度



(2) 生産誘発

本社生産額 26 兆 9390 億円のうち都内の最終需要によって 15.2% が誘発され、残りの 84.8% はその他地域の最終需要によって誘発された。

生産額が、東京都およびその他地域の最終需要によってどの程度誘発されたかをみると、東京都の財生産額 29 兆 690 億円は東京都の最終需要によって 56.7% が誘発され、残りの 43.3% はその他地域の最終需要によって誘発された。また、東京都のサービス生産額 103 兆 932 億円は東京都の最終需要によって 57.6% が誘発され、残りの 42.4% はその他地域の最終需要によって誘発された。一方、本社生産額 26 兆 9390 億円は東京都の最終需要によって 15.2% が誘発され、残りの 84.8% はその他地域の最終需要で誘発されたことから、その他地域との関連が深いことがわかる (図 10 - 3)。

次に、一単位の最終需要によって、どの程度の生産が誘発されるかを示す生産誘発係数をみると、都内の最終需要一単位増により、東京都の財・サービス生産が 1.03 単位誘発され、また、東京都本社生産が 0.06 単位、その他地域の財・サービス生産が 0.59 単位、その他地域本社生産が 0.05 単位誘発される。その他地域の最終需要一単位増についてみると、その他地域の財・サービス生産が 1.52 単位誘発され、また、その他地域の本社生産が 0.05 単位、東京都の財・サービス生産が 0.11 単位、東京都の本社生産が 0.04 単位誘発される (図 10 - 4)。

【注 1】生産誘発額

最終需要を賄うために直接・間接に必要な各産業部門の生産額の合計。

【注 2】生産誘発依存度

各産業部門における最終需要項目別生産誘発額の横の構成比であり、各産業部門の生産がどの最終需要項目によって、どれだけ誘発されているかの割合を示す。

【注 3】生産誘発係数

最終需要項目の合計が一単位だけ増加したとき、どの産業部門の生産をどれだけ誘発しているかを示す係数である。

図 10 - 3 生産誘発依存度

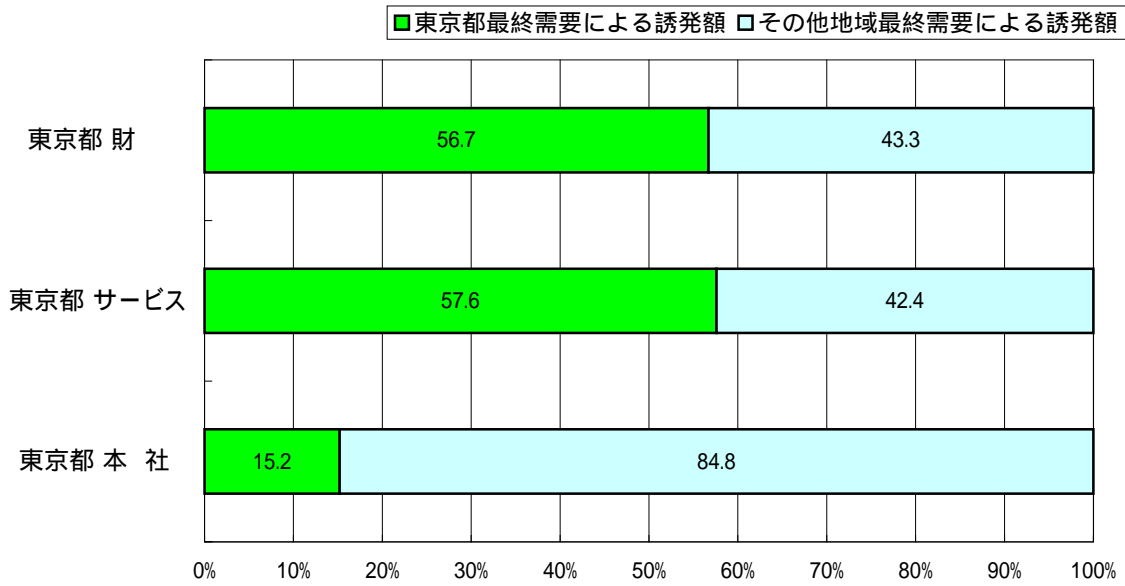


図 10 - 4 生産誘発係数

